

風疹大流行、毎週300人超ペースで増加中

風疹の流行が止まらない。国立感染症

研究所は今年2月後半から毎週300

人を超えるペースで増え続け、患者数は

昨年同時期に比べ25倍にも達している

と発表しています。患者の多くは子供のこ

ろに予防接種を受けなかった20〜40歳代

の男性が多く、今後増え続ける恐れが

あります。風疹は発熱や発疹などの症状

が出るウィルス性感染症で重症化や合

併症の危険は低いですが、先天性風疹症

候群(注1)になる可能性があります。

(注1)先天性風疹症候群

妊婦、特に妊娠初期の女性が風疹にか

かると、胎児が風疹ウィルスに感染し、

難聴、心疾患、白内障、そして精神や身

体の発達の遅れ等の障害をもった赤

ちゃんが生まれる可能性があります。こ

れらの障害を先天性風疹症候群とい

ます。

☆風疹ワクチン予防接種の歴史

①風疹ワクチンの定期予防接種は、昭和

52年度から開始されましたが、当時は、

先天性風疹症候群の発生を防ぐことを

目的とし、中学生の女子のみを対象に予

防接種が行われたため、現在30歳代後半

以上となる男性は定期予防接種の機会

がありませんでした。

②平成7年からは生後12カ月から90カ

月未満の年齢の男女小児および中学生

男女になりましたが接種率は低く、これ

らのことから風疹患者は20歳代から40

歳代の男性、20歳代の女性の割合が高く

なっていると考えられています。

☆現在(平成25年4月以降)の定期予防接種スケジュールについて

麻疹とともに2回接種制度が導入さ

れ、1歳児(第一期)と小学校入学前1

年間の幼児(第二期)に原則として、麻

疹混合(MR)ワクチンが接種される

ようになります。

☆妊娠と風疹に関するQ&A

(1)現在、妊娠が分かっただけの妊婦で

すが、これまで風疹の予防接種を受けた

ことがありません。家族に風疹の予防接

種を受けてもらうべきでしょうか？

妊婦の家族内に、「ワクチン接種の記

録」または「風疹の確実な罹患歴(症状の

みからの診断ではなく、抗体検査などに

よって確認されたもの」がない方がいる

場合には、その方から妊婦に風疹をうつ

してしまつ可能性があります。これを防

ぐために、家族の方は出来るだけ早く接

種を受けることが勧められます。

(なお、妊婦が風疹の予防接種を受ける

ことはできません。)

(2)現在妊娠初期です。自分の風疹予防接

種の接種記録があります。妊娠中に風疹

にかかる可能性は？

予防接種を受けた記録があるので免

疫をもっている可能性が高く、風疹ワク

チンの効果は95〜99%、現在風疹にかか

る可能性は極めて少ないと考えられま

す。しかし、風疹患者と密接な接触をす

ると、感染する可能性が完全には否定で

きません。念のために、妊娠初期に行な

われる風疹抗体価検査の結果をもとに、

かかりつけの産婦人科医に相談してく

ださい。

(3)妊娠初期の検査で風疹抗体価が十分

高くないという結果でした。妊娠中どの

ような注意をしたらよいでしょうか？

妊娠中とくに妊娠初期は、風疹にか

かっている可能性のある人との接触は可

能な限り避けてください。家族の中にワ

クチン接種記録、または風疹の確実な罹

患歴(抗体検査など)によって確認された

もの)のない方がいる場合、その方は至

急風疹ワクチンの接種を受けるように

してください。

(4)不妊治療も含め妊娠を希望される場

合、予防接種はどうすればいいでしょう

か？

不妊治療をされているご夫婦で最近

多いですが、不妊治療を始める前にちや

んと風疹の抗体検査を行い、抗体がない

ならば予防接種をすべきです。苦労して

せつかく子供を授かったあとに妊婦検査

で風疹の抗体がないと分かり不安にな

ることがあります。ただし、接種後

2カ月は避妊する必要があります。

最後に風疹は定期予防接種の対象と

なっている病気ですが、風疹にかかったこ

とがなく、これまで予防接種を受けてい

ない場合は、かかりつけ医等へのご相談

をお勧めします。